2018作陽ファカルティコンサートⅢ

H.ヴィラ＝ロボス没後60年

長瀬敏和

サクソフォンリサイタル

出演：長瀬敏和(Sax)
森 圭吾(Fl)　菅付章宏(Ob)
居川寛子(Pf Cel)　鈴木貴子(Hrp)
中谷匡志(Gt)　中田拓也(Per)

2018 Sakuyo Faculty Concert Ⅲ

Toshikazu NAGASE Saxophone Recital

2019
1/26 土
13:30開場
14:00開演

聖徳殿（くらしき作陽大学内）

入場料　一般2,500円（当日3,000円）
高校生以下無料

program

第1部
P.ヴェロンヌ「ラプソディ」
H.ヴィラ＝ロボス
「ブラジル風バッハ第5番」アリア
「花を分ける」
「ジェット・ホイッスル」
「神秘的6重奏曲」

第2部
P.ボノー「カプリス」
V.モロスコ「ブルー・カプリス」
D.ベダール「ファンタジー」
H.ヴィラ＝ロボス「ファンタジア」

主　催：くらしき作陽大学音楽学部・作陽音楽短期大学
後　援：倉敷市、倉敷市教育委員会、総社市、総社市教育委員会、公益財団法人倉敷市文化振興財団
岡山県吹奏楽連盟、山陽新聞社、RSK山陽放送、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送

お問い合わせ：くらしき作陽大学演奏芸術センター　Tel 086-523-0822

H.ヴィラ＝ロボス没後60年

2019年に没後60年を迎える、ブラジルの国民的作曲家H.ヴィラ＝ロボスの作品を中心にプログラムを構成した。H.ヴィラ＝ロボスの作品は、ブラジル民族音楽の語法を取り入れた野趣に富むものである。大変大掛かりなものから独奏曲まで多岐にわたるが、今回は彼の特徴が最も表れている室内楽作品を中心に据えた。

第1部は、フランスの作曲家P.ヴェロンヌの「ラプソディ」オリジナル編成版（サクソフォン、チェレスタ、ハープ、打楽器）で幕を開け、H.ヴィラ＝ロボスの世界へと誘う。彼の作品の中で最も名高い名旋律「ブラジル風バッハ第5番」からアリア、不思議な情感を持つ「花を分ける」をギターとの2重奏で、特殊奏法が炸裂する「ジェット・ホイッスル」をフルートとの2重奏で演奏。私のイチ押しである「神秘的6重奏曲」は、その楽器編成に大変特徴があるため、実演に接する機会がほとんどない。しかし、6つの楽器（フルート、オーボエ、サクソフォン、ギター、チェレスタ、ハープ）が醸し出す音楽は、この世のものとは思えない不思議な響きに溢れており、まさに天上の音楽が舞い降りたと感じるに違いない。

第2部は、同じタイトルであるが違う視点で書かれた作品を演奏し、味わいの違いをお聴きいただく。クラシックの作曲家P.ボノーが書いたジャズ風の「カプリス」、ジャズの作曲家V.モロスコがそれに触発されて書いた「ブルー・カプリス」、ソプラノ・サクソフォンの魅力を最大限に引き出したD.ベダールの「ファンタジー」、そして本日の主役、H.ヴィラ＝ロボスによる「ファンタジア」である。

長瀬敏和

長瀬敏和（サクソフォン）

作陽音楽大学（現くらしき作陽大学）、同大学専攻科を修了。読売新人演奏会、日演連推薦新人演奏会に出演。日本管打楽器コンクール、宝塚ベガ音楽コンクールに入選。大阪市音楽団（現オオサカ・シオン・ウィンド・オーケストラ）のコンサートマスターとして、日本の吹奏楽を先導してきた。現在は母校で教育に力を注いでおり、学生の進路に合わせた教育系・演奏系吹奏楽授業の展開、客演指揮者に宮川彬良氏を迎えるなど、新たな風を送り続けている。CD「クローバーリーフ・スイート」（FOCD9624）が、「レコード芸術」誌のレコード・アカデミー賞にノミネートされた。2018年クロアチアで行われた「第18回世界サクソフォン・コングレスに参加。2021年の開催地に倉敷から立候補し、最終日のプレゼンテーションにて当選。「第19回世界サクソフォン・コングレス in 倉敷2021」では、世界のサクソフォン奏者や教育者、研究者を迎えるホストを務める。

現在、くらしき作陽大学音楽学部、同大学院教授。日本サクソフォン協会運営委員、同大阪支部長。国際サクソフォン評議委員会委員。

Toshikazu NAGASE Saxophone Recital